

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 23 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370827

研究課題名(和文)北イスラエル王国時代末期の実証的歴史研究

研究課題名(英文)Empirical Historical Studies of the Last Days of the Northern Kingdom of Israel

研究代表者

長谷川 修一 (HASEGAWA, Shuichi)

立教大学・文学部・准教授

研究者番号：70624609

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：(1) 北イスラエル王国末期の時代を描く『旧約聖書』のより古い本文を再構成できた。(2) 新アッシリアの王碑文の検討により、実際にサマリアを征服した人物は、シャルマネセル五世であった可能性が高いことを明らかにした。(3) 北イスラエル王国内諸遺跡の検討により、新アッシリアによる対北イスラエル王国政策が単なる軍事征服ではなかったことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：(1) Older text of the Book of Kings in the Hebrew Bible, describing the last days of the Northern Kingdom of Israel, was reconstructed. (2) By examining the Neo-Assyrian royal inscriptions, the probability was pointed out that the real conqueror of Samaria was Shalmaneser V. (3) By examining various sites in the Northern Kingdom of Israel, it was pointed out that the Assyrian conquest of the Northern Kingdom was not merely a military conquest.

研究分野：古代イスラエル史

キーワード：古代イスラエル

1. 研究開始当初の背景

(1) 古代イスラエル王国史研究は、紀元前 10 世紀から紀元前 6 世紀初頭のパレスチナにおける政治・社会・経済・宗教的諸相を対象とする歴史研究の一分野である。旧約聖書が扱う地域・時代を対象とするこの分野の研究をけん引するのは欧米の研究者で、本邦での本格的な研究は少ない。そのため例えば、学界ではすでに数十年來その史実性が疑問視されている「出エジプト」という事件が、本邦では依然として高等学校の世界史教科書に史実として記されるなど、近年の古代イスラエル史研究の成果が社会に十分に還元されているとはいえない。

(2) 従来、こうした旧約聖書中の「歴史書」と呼ばれる書物の記述は、基本的には史実を反映したものと見做られ、無批判に史料として扱われ、古代イスラエル王国史研究の基本史料とされていた。しかし他の碑文史料や考古学的研究結果との齟齬が判明してきた 1970 年代以降、これら「歴史書」にも厳密な史料批判を加えることの重要性が認識されるようになり、同時代セム語碑文研究や西アジア考古学の研究成果が聖書記事の史料批判に用いられるようになってきた。その結果、聖書記事の一部の史料価値が否定されるケースも増えている。こうした傾向を背景に 1990 年代以降、考古学がより「客観的な科学」として強調され、古代イスラエル王国史研究において最も重要な役割を担われる傾向が顕著になった。かつては、聖書記事の史実性を裏づけるために「濫用」され「歴史学の婢」としての役割に甘んじることの少なくなかった考古学の側から、新たな古代イスラエル王国史像を提出しようというこうした積極的な姿勢が出現してきたこと自体には一定の評価をすべきである。しかし、これら考古学的研究の多くは、精緻な史料批判の過程を踏まないまま、考古学的研究の成果と合致する聖書記事のみを短絡的に信憑性のある史料として扱ったり、逆に合致しない記事の史料価値を即座に全面否定したりする点において、聖書記事を無批判に史料とした従来の研究と同様、十分な客観性が確保された歴史研究とはいえない。また、考古学者間においても遺物や遺構をめぐる様々な解釈が存在することを考えあわせれば、考古学的研究の成果のみを聖書記事の史料価値を決定する「最高裁」として用いるこうした研究が真に実証性の高い歴史像を提示しているとはいえない。

(3) こうした現状に鑑み、本研究では、三分野それぞれの研究対象や学問方法の特性を認識しつつ、各々を個別に、徹底的かつ批判的に分析したうえでその結果を総合するという新たな手法を古代イスラエル王国史研究に導入する。本研究で扱う時代は北イスラエル王国が滅亡に至るまでの 30 年間という、イスラエル王国史上重要な時代であるにもかかわらず、王国滅亡の過程やその年代に関

しては研究者間で未だ意見の一致をみていない。しかしながら、古代セム語文献史料が充実し、またこの時期に年代づけられる破壊層が関連諸遺跡で確認されていることから、総合的手法による歴史研究の成果が十分に期待できる時代である。そこで本研究ではこの手法によって、当該時代のより実証的な新たな歴史像を構築することを目指す。

2. 研究の目的

本研究の全体構想は、紀元前 8 世紀後半から紀元前 720 年にかけての古代北イスラエル王国末期の政治史について、より実証性の高い、新たな歴史像を構築することである。具体的には、まず旧約聖書・同時代セム語碑文・関連する諸遺跡層位の物質文化を批判的に個別に研究し、その結果を総合するという手法を用いて、これまで十全に解明されてこなかった北イスラエル王国滅亡の歴史的経緯に関して、王国末期の王朝交代と対外政策との関係、首都サマリア陥落の正確な年代、史料によってサマリア征服者が異なる歴史的・歴史叙述的背景、三年間包囲が続いたとされるサマリア陥落の実態という四点を中心に明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 本研究では、以下の ~ の手順を踏み、北イスラエル王国末期の歴史像を構築する。

同時代を描いた聖書記事のオリジナルに近いテキストを復元し、史料価値の高い部分を抽出する。

同時代セム語文献資料の分析を通して、北イスラエル王国に大きな影響を及ぼし、後には同国を滅ぼしたアッシリアの国内政治情勢を再検討する。

サマリアとそれ以外のパレスチナの遺跡の発掘調査結果を比較することにより、サマリア攻囲戦の特異性を解明する。

~ の研究結果を総合的に考察する。

4. 研究成果

(1) 北イスラエル王国末期の時代を描く『旧約聖書』「列王記下」15 章から 17 章までのより古い本文を、様々な古代訳写本等との比較を通し、本文批評的観点から再構成することができた。とりわけ、七十人訳聖書に、北イスラエル王国最後の王ホシエアが共謀したエジプト王の名が、他の写本と異なっているという事実が、七十人訳がエジプトで作成されたことと関係しており、後代の訂正である可能性は否めないものの、正確性を期することのできる情報である可能性を有することを確認できた。

(2) 北イスラエル王国末期時代に平行する新アッシリアの三人の王の王碑文を詳細に検討することによって、王碑文内のプロパガンダの要素を浮き彫りにし、そこに書かれている北イスラエル王国、とりわけサルゴン二世のサマリア征服の記述については、それが多

分に王権プロパガンダ的な要素を含んでおり、実際にサマリアを征服した人物は、従来主流であった学説とは異なり、シャルマネセル五世であった可能性が高いことを明らかにした。

(3) 従来それがティグラト・ピレセル三世の破壊に一元的に帰されてきた、北イスラエル王国末期の諸遺跡で出土した同時代の層について詳細な検討を加え、破壊の年代が必ずしも一度の遠征によるものではなく、その前後の時代に破壊されたものがあること、また、まったく破壊がなく、単に放棄された遺跡や、居住が継続している遺跡があることも確認することができた。これは、新アッシリアによる対北イスラエル王国政策が単なる軍事征服ではなかったことを明らかにする重要な発見である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計13件)

Shuichi Hasegawa, Jozacar; Jezreel (Person) Son of Hosea; Jokneam; Joah Son of Joahaz; Jezreel (Person) Son of Etam; Joah Son of Zimmah, Father of Iddo; Joah Son of Asaph; Joah Son of Obed-edom; Jokdeam; Joah Son of Zimmah, Father of Eden, Jozacar; Jezreel (Person) Son of Hosea; Jokneam; Joah Son of Joahaz; Jezreel (Person) Son of Etam; Joah Son of Zimmah, Father of Iddo; Joah Son of Asaph; Joah Son of Obed-edom; Jokdeam; Joah Son of Zimmah, Father of Eden, 査読無、Vol. 14、2017

長谷川修一、北イスラエル王国時代末期の歴史的研究序説、小川英雄先生傘寿記念献呈論文集刊行会編『古代オリエント研究の地平 小川英雄先生傘寿記念献呈論文集』、査読無、2016年、91-109

Shuichi Hasegawa, Hisao Kuwabara and Yitzhak Paz, Tel Rekish 2014: Preliminary Report, Hadashot Arkheologiyot, 査読無、Vol. 129、2017

http://www.hadashot-esi.org.il/report_detail_eng.aspx?id=25170&mag_id=125

Shuichi Hasegawa and Yitzhak Paz, Tel Rekish 2013: Preliminary Report, Hadashot Arkheologiyot, 査読無、Vol. 127、2015

http://www.hadashot-esi.org.il/report_detail_eng.aspx?id=24892&mag_id=122

Shuichi Hasegawa, Reconstructing History of the Northern Kingdom of Israel, JSPS Quarterly, Vol. 53, 査読無、2015、5

https://www.jsps.go.jp/english/e-quart/quarterly_pdf/jsps_quarterly53.pdf

長谷川修一、モーセ —「古代イスラエル」のスーパーヒーロー?—、キリスト教学、査読無、57巻、2015、1-24

長谷川修一、文献学と考古学 —古代イス

ラエル史の方法—、上智大学キリスト教文化研究所編『聖書の世界を発掘する 聖書考古学の現在』、査読無、2015、147-172

Shuichi Hasegawa, The Conquests of Hazael in 2 Kings 13:22 in the Antiochian Text, Journal of Biblical Literature, 査読有、Vol. 133, No. 1、2014、61-76

DOI: 10.1353/jbl.2014.0009

Shuichi Hasegawa, Clumsy or Talented? – The Fluctuation of First and Third Persons in the Text of Tell al-Rimah Stela, Orient, 査読有、Vol. 49、2014、19-29

DOI: 10.5356/orient.49.19

長谷川修一、歴代誌のイエフ —イエフはアハズヤを殺害したか(歴代誌下22章7-9a節)—、聖書学論集、査読有、第46号、2014、115-138

[学会発表](計13件)

Shuichi Hasegawa, Comment l'archéologie peut éclairer la Bible, コレージュ・ド・フランス(招待講演)、2017年3月8日、パリ(フランス)

Shuichi Hasegawa, Who Killed Ahaziah in the Book of Chronicles, マインツ大学(招待講演)、2016年12月7日、マインツ(ドイツ)

Shuichi Hasegawa, A New Perspective of Biblical Archaeology, 復旦大学(招待講演)、2016年10月24日、上海(中国)

Shuichi Hasegawa, The Interaction between Archaeology and Biblical Interpretation, 浙江大学(招待講演)、2016年10月20日、杭州(中国)

Shuichi Hasegawa, From Archaeology to History, 浙江大学(招待講演)、2016年10月19日、杭州(中国)

Shuichi Hasegawa, Archaeology and Hebrew Bible, 浙江大学(招待講演)、2016年10月18日、杭州(中国)

Shuichi Hasegawa, Did the Author of the Book of Kings Know the Circumstances of Josiah's Death (2 Kgs 23:29)?, International Organization for the Study of the Old Testament (国際学会)、2016年9月4日~9日、ステレンボッシュ(南アフリカ)

Shuichi Hasegawa, Who Killed the Sons of Zedekiah (Jer 52:9-11; 2 Kgs 25:6-7)?, Society of Biblical Literature International Meeting(国際学会)、2015年7月2日~7日、ソウル(韓国)

Shuichi Hasegawa, Tel 'En Gev in the Iron Age II: Material Culture and Political History(招待講演)、Dependency and Autonomy in Intercultural Relations: Israel and Aram as a Case Study、2016年6月5日~9日、ライプツィヒ(ドイツ)

Shuichi Hasegawa, Who Killed Ahaziah in the Book of Chronicles, Society of Biblical Literature International Meeting(国際学会)、2015年7月23日、ブエノスアイレス(アルゼンチン)

長谷川修一、モーセ —「古代イスラエル」のスーパーヒーロー？、立教大学キリスト教学会（招待講演）2015年5月30日、立教大学（東京都・豊島区）

長谷川修一、文献学と考古学 —古代イスラエル史の方法、上智大学 2014年度聖書講座（招待講演）2014年11月16日、上智大学（東京都・千代田区）

Shuichi Hasegawa、Use of Archaeological Date for the Investigation of the Itineraries of Assyrian Military Campaigns、Interaction, Interplay and Combined Use of Different Sources in Neo-Assyrian Studies: Monumental Texts and Archival Sources、2014年12月16日、筑波大学（茨城県・つくば市）

〔図書〕（計 0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
北イスラエル王国時代末期の実証的歴史研究（<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/shasegawa/>）

6. 研究組織

(1)研究代表者

長谷川 修一（HASEGAWA, Shuichi）

立教大学文学部・准教授

研究者番号：70624609

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：

(4)研究協力者

()